

# ■ 鱒ヶ沢町地域公共交通計画（概要案）

## ■ 鱒ヶ沢町の公共交通の基本理念

『歴史と海・山・川が人と人をつなぐまち 鱒ヶ沢』  
の実現に貢献する”公共交通”

## ■ 公共交通の課題

**課題1**

**地域の実態に合わせた公共交通の確保・改善が必要**

中心部や郊外部で町民の移動実態は様々であるため、多くのあじバスの運行により対応してきたが、少子高齢化などによる地域の状況の変化や施設・団体による配送・移動サービス等の導入など、地域の実態に合わせた車両や運行内容の見直しが必要となる。

**課題2**

**広域路線を維持していくための取組が必要**

町内には、あじバス以外にも広域的な移動を支える路線バス・鉄道が運行しており、町外の買い物・医療・教育施設などへの移動手段として重要な役割を果たしており、今後も広域路線の維持に向けた取組が必要となる。

**課題3**

**交通拠点の機能強化が必要**

利便性の高い公共交通を構築するためには、町内路線同士だけでなく広域路線とも連携が重要であることから、乗継などが行われる施設を交通拠点として位置づけ、利用者にとって町内を運行する公共交通が使いやすくなるような機能強化が必要となる。

**課題4**

**適切な財政負担で公共交通を維持していくことが必要**

今後も安心して通学や外出ができる環境を維持していくことが重要であるため、公共交通に対する適切な財政負担の維持に向けて、限りある財源を取捨選択しながら、効率的に運行を行うことが必要となる。

**課題5**

**町民と共に公共交通を守り支える環境づくりが必要**

時刻変更が生じるあじバスの運行内容を適切に町民に伝えるための情報発信の強化を行うとともに、公共交通が置かれた実態や利便性を伝えることで、公共交通を町民と共に守り支える環境づくりの推進が必要となる。

## ■ 基本方針および目標

※指標の現況値は令和4年度実績を使用

**基本方針①**

**スクールバスとしての役割を維持しながら、誰もが快適に移動できる公共交通**

**目標1：町民の町内移動を支える持続可能な交通ネットワークの構築**

町民の移動手段を維持していくため、地域の実態に合わせた効率的な運行体系の構築を目指す。

また、利用しやすい環境を整えることで、将来的に町民の移動を支える公共交通ネットワークの構築を行う。

**指標①：あじバスにおける年間利用者数(高校生以上)**  
34,800人/年 ⇒ **35,000人/年以上**

**指標②：あじバスに係る町の財政負担額**  
1.43億円/年 ⇒ **1.46億円/年以下**

**指標③：あじバスに係る満足度の平均値**  
3.3 ⇒ **3.4以上**

**基本方針②**

**行政と交通事業者、地域が連携して支える持続可能な公共交通**

**目標2：本町と町外を結ぶ広域路線の維持**

行政が交通事業者の協力を得ながら主体的に運行を行う町内路線と施設・団体が主体的に運行を行う公共交通以外の町内移動サービス、交通事業者が主体的に運行する広域路線の連携を強化し、町内だけでなく町外への移動利便性も向上させることで、広域路線の維持を目指す。

**指標④：町内における弘南バス路線の年間乗降者数**  
42,456人/年 ⇒ **43,000人/年以上**

**基本方針③**

**わかりやすくかつ安心して利用できる公共交通**

**目標3：町民の公共交通に対する意識の向上**

町民に対して公共交通を自発的に利用してもらえるよう、実態や必要性を伝えるなどの理解を深める取組を進め、公共交通の利用者の確保や将来的な就職先の選択肢の1つとして、公共交通の担い手が含まれるきっかけづくりを目指す。

**指標⑤：公共交通出前講座の開催回数**  
0回/年 ⇒ **2回/年以上**

**指標⑥：人口1人あたりのあじバスの年間利用回数(高校生以上)**  
4.08回/年 ⇒ **5.00回/年以上**

## ■ 施策内容

### 目標1を達成するための施策

**施策1：あじバスの運行見直しによる効率化・利便性向上**

- あじバスと路線バスが重複する路線について、運行ダイヤの調整を行い、利用者の集約を図り、限りある交通資源を有効に活用する。
- 通学便について、将来的な教育環境の整備状況や児童・生徒数の変化に応じて路線の再編を行い、運行効率化を図る。
- 効率化により得られた資源（財源・乗務員・車両）を活用し、新たな便などの導入を検討する。
- 市街地の周遊利便性をさらに高めるため、他のあじバスとの乗継時間を考慮したダイヤ連携を行う。

**施策2：わかりやすいバス停表示の構築**

- 時刻表の表示をわかりやすいものに見直す。
- 多くの路線が乗り入れる区間において、行先ごとの表記や色分けなどの工夫を行う。

**施策3：誰にでもやさしい車両の導入検討**

- 社会情勢の変化や求められるニーズに合わせ、低床車両やE V車両などの次世代車両の導入を検討する。

### 目標2を達成するための施策

**施策4：路線バスとの連携強化による広域路線の利用者確保**

- あじバスと連携し、重複する運行ダイヤの調整を検討する。（施策1と関連）
- 広域路線バスの利便性を高め、路線の維持を図るため、利用者確保に向けた支援策を検討する。

**施策5：町内路線と広域路線間の乗継利便性の改善**

- 交通拠点である鱒ヶ沢駅において、あじバスと鉄道、路線バスとの乗継時間が長大かつ短小にならないよう調整を図る。

**施策6：公共交通以外の移動サービスとの連携**

- 公共交通以外の移動サービスを提供する事業者・団体と町や交通事業者が適切に連携するために、ネットワークの構築を行う。
- 互いに意見を出し合うことで、あじバスや路線バスの隙間需要の解消策を検討する。

### 目標3を達成するための施策

**施策7：イベントや観光施設との連携などによる利用機会の創出**

- 町内のイベントや施設と連携した企画を導入するなど、公共交通の利用支援策を検討する。

**施策8：公共交通利用意識の醸成に向けた出前講座の開催**

- 町民に対し、公共交通の利用方法や必要性など、公共交通を守り支える意識の醸成を図るための公共交通出前講座を開催する。

**施策9：デジタル技術を活用した新たな情報発信方法の検討**

- 利用者の利便性向上を図るため、バスロケーションシステム（位置情報の提供）やデジタルサイネージ（案内版）などの導入を検討する。
- 公共交通データの提供（オープンデータ化）により、運行情報検索の実現を図り、わかりやすい情報発信を行う。